

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
情報・技術ワーキンググループ(第9回)

【提出意見】

鎌田高德

議題3 情報教育の体系化の p14 に関する提出意見

○高校・中学校の内容構成について、賛同点と懸念点

高等学校の情報Ⅰ・情報Ⅱについて、実習ベースでプロセスを重視する方向で整理されていることには賛同します。デザイン思考におけるプロトタイピングや、PBL による課題解決など、生徒が実際に手を動かし、試行錯誤しながら学ぶことを重視する設計は、これからの情報教育において重要な方向性であり、現場としても歓迎したい内容です。

一方、中学校と高等学校の接続についても確認したい点があります。中学校で扱う情報デザインと、高校で扱う情報デザインやデザイン思考が、どのように系統的につながるのかを、より明確に整理する必要があると考えます。中学校でユーザ視点に立った情報デザインを学んだ生徒が、高校でプロトタイピングや課題解決、デザイン思考へと発展させていく流れが見えるようにすることが重要です。

さらに、今回の案では、これまで高等学校で扱っていた内容の一部が中学校段階に移行しており、プログラミングを含めて中学校の学習内容は相当大きくなっていると感じます。中学校が高校の内容につながる重要な学びを担う以上、中学校現場への十分な支援が不可欠です。

p18 にも示されているように、授業時数と内容のバランスの検討に加え、教師の指導力向上、教材・指導資料の整備、ICT 環境の整備、専門人材の配置など、現場を支える条件整備を、内容改善とセットで進めていただきたいと思います。高校の ICT 環境整備と同じ熱量で、中学校への支援についても強く位置付けていただくことを、現場からの切実な要望として申し上げます。